

第15回 学び舎ユネスコ 教養・文化講座

わがまち再発見

フィールドミュージアムの
可能性をさぐる



講師：渡部 一二

フィールドミュージアムの概念について-1

- 1) 1970年代にフランスで誕生したエコ・ミュゼ、すなわちエコ・ミュージアム運動のひとつの形態としてフィールドミュージアムがある。
- 2) 「箱もの」の博物館ではなく、地域の自然や人々の営みそのものを博物館とみなす。

(出典「フィールドミュージアムについて」京都大学教授 湯本貴和)

フィールドミュージアムの概念について-2

- 3) 研究・保全・普及という博物館的活動を通じて社会的にも経済的にも活用を図ろうという構想である。
- 4) 地域社会の発展に寄与することを第一の目的として掲げて「行政と住民が一体となって発想し、形成し運営する」ことに力点がおかれている所が旧来の博物館とは様相を異にしている。

(出典「フィールドミュージアムについて」京都大学教授 湯本貴和)

フィールドミュージアムの概念について-3

- 5) 国内外の多くの先進的な博物館が、活動の現場を博物館内に留めず「外」に飛び出している。
- 6) 運営には市民やNPOが大きく関わり出したため、フィールドミュージアムとは急速にボーダーレスとなりつつある。

(出典「フィールドミュージアムについて」京都大学教授 湯本貴和)

フィールドミュージアムの可能性をさぐる

人と自然を“つなぐ” 市民による共創場の創出



①

自然との共生



②

知恵・知識・情報
歴史的価値の継承

③

色々な
ネットワーク

④

水路空間と環境



あなたの存在が
大事だよ～



フィールドミュージアムの可能性をさぐる



小平市用水路の親水および緑道利用敷地の愛称



エコミュージアムについて

- ① 「ある一定の文化圏を構成する地域の人びとの生活と、その自然、文化および社会環境の発展過程を史的に研究し、それらの遺産を現地において保存、育成、展示することによって、当該地域社会の発展に寄与することを目的とする野外博物館」と定義づけられている。
- ② その運営は、住民参加を原則とし、普通の博物館と違って対象とする地域内にコアと呼ぶ中核施設(情報・調査研究センター)と、自然・文化・産業などの遺産を展示するサテライト、新たな発見を見い出す小径などを配置し、来訪者が地域社会をより積極的に理解するシステムで行われている。
- ③ その用語は生態学(Ecology)と博物館(Museum)からの造語で、人間と環境との関わりを扱う博物館として考案されたものである。

(出典「エコミュージアムについて」法政大学教授 馬場憲一)